

川内原発の地震対策工事は、まだ未実施 福島事故原因は地震だったのに、なぜ？



▲写真は『南日本新聞』から

5月15日、薩摩川内市議会・原発特別委員会は、九電の山元副社長などを参考人として呼び、報告を受けて質疑を行いました。翌日の新聞は、そろって「夏の再稼働厳しい」といった見出しの記事をのせました。

でも最も重要な証言は、「地震対策の工事はまだ実施されていない」、ということだったのではないのでしょうか（佃議員質問への回答）。

●福島原発事故の真因は、地震だった

東電は事故原因を、「想定外」の高さの津波だったと言っています。しかし津波がやってくる前に、すでに福島原発に異常が発生。事故が始まっていたことが、東電のデータから判ります。配管の破断などが起こっていました。

九電は、基準地震動（設計の基準となる地震の強さ）を620ガルに引き上げました。それ

によって規制委員会から、「再稼働トップバッター」に指名されました。ところが耐震性を高める工事は、まだ建屋や装置の今の耐震性をコンピューターで確かめる段階。「シミュレーションがいつ終わるか判っていない」、という証言が飛び出したのです。

●原発を作り直すような工事は中止、廃炉へ

本当かどうか判りませんが、九電は「火砕流が原発に到達するようなカルデラ噴火は、数10万年に1回」、「数10年前に予知できる」とのこと。でも、従来の基準地震動を超える地震は、2000年からの10年で、日本で7回。

ほとんど原発を再設計し、作り直すような耐震工事が必要なら、廃炉にした方がマシです。九電も、「この夏の電気は足りる。3%の余裕あり」、とっていました。